

初等生活科概説・教育法における公立小学校との コラボ授業の試み

飯 沼 慶 一*

IINUMA Keiichi

教育学科の各教科の概説・教育法は、小学校教員免許状を取得するための科目であり、小学校における各教科の内容や指導法を学ぶ科目である。しかしながら、学生にとって自分たちが小学校の授業を受けてから7年以上が経過し、小学生の状況や反応が十分に理解できていないままに各教科の内容を学んでいる。

また各教科指導法では指導案を作り、大学生を小学生に見立てて模擬授業を行っているが、実際の小学生と反応が違うのは当然のことである。特に生活科は小学校1・2年生の教科であるので、学生たちの一般的な小学生のイメージの中学年以上とは違い、発想や物事の理解については想像できていないようであった。中にはボランティアで小学校でお手伝いして子どもたちの現状を把握している学生もいるが、多数ではないのが現状である。

そんな中、近隣の公立小学校から目白校地を使って生活科の授業ができないかという相談があった。前述の授業の問題を解決できるとともに、小学生にとってもきめ細やかな支援ができることもあり、初等生活科概説・指導法の授業で大学生が実際の小学校の生活科授業の支援をする活動を行うこととなった。

1. コラボ授業3年間の試み

○2014年度 A小学校

10月7日(木) 2時間目(10:40~12:10) 2年生「秋探し」

近隣のA小学校の2年生担任の先生から連絡があり、学習院の目白の森を使って「秋探し」の授業をしたいという相談があった。学科としても良い機会であると考え、教育学科学生を参加させる授業をすることになった。当時は教育学科学生が1・2年生しか在籍していなかったため、初等生活科概説・教育法の授業ではなく、希望者を募り、下見を行い授業を支援した。参加した学生はその後、秋探しで見つけたもので作った作品の発表会に招待され、児童との交流を育んだ。

○2015年度 A小学校2年生 9月24日(木) 2時間目(10:40~12:10)「学習院大学探検」

B小学校1年生 11月5日(木) 2時間目(10:40~12:10)「秋探し」

2015年度はA小学校とは事前に連絡を取り、秋に「町探検」の一環で目白校地の探検を行うことになった。この年度から、後期の初等生活科教育法を使い、授業の一環として生活科授業の支援を行った。

また、前年の実践の話を聞いてなのか、少し離れたB小学校からも目白校地で「秋探し」を学生とともに行えないかという連絡もあり、同じ初等生活科教育法を受講している学生が支援を行った。

* 学習院大学文学部教育学科

このように2015年度は、後期に2つの学校からの依頼があり、A小学校では「顔合わせの会」「学生のみによる下見」「小学生とともに学習院大学探検」「お礼の会」の4コマ分、B小学校は「学生のみによる下見」「小学生とともに秋探し」の2コマ分のコラボ授業を行った。しかし、後期生活科指導法は15コマのうち6コマをコラボ授業に使うこととなり、模擬授業などの他の授業内容を行う時間確保が難しい状態になってしまった。

○2016年度

A小学校2年生 6月2日(木)・6月16日(木) 2時間目(10:40~12:10)「学習院大学探検」

A小学校1年生 10月13日(木) 2時間目(10:40~12:10)「秋探し」

2015年度の反省より、4月の時点でA小学校の1・2年生の先生方と連絡を取り、前期生活科概説では2年生「学習院大学探検」で学生による目白校地の案内を行い、後期生活科教育法では1年生「秋探し」で児童と一緒に秋探しを行うことで調整した。このことにより前期の生活科概説では「学生による探検の下見」「学習院探検①」「学習院探検②」「ありがとうを伝える」(これは後期に行った)の4回、後期も生活科教育法で「顔合わせの会」「学生による秋探しの下見」「秋探し」「お礼の会」4回を前後期にバランスよくA小学校とのコラボ授業に充てることができた。

2. コラボ授業の内容

ここでは2016年度に実施した、前期2年生「学習院探検」後期1年生「秋さがし」の内容を紹介する。

○ 前期 2年生「学習院大学探検」(生活科概説)

事前の準備

授業を行うにあたり、A小学校2年生担任と打ち合わせを行い、日程・内容等を打ち合わせをし、大学に書類を提出していただいた。また、大学内では想定できる児童の見学場所にコラボ授業の内容説明と見学の許可をとった。授業については、指導案を一回目の授業の前にメールでいただき授業内で学生に説明した。

① 5月26日

次週のコラボ授業の説明

指導案を見ながら、目標を確認し、児童の支援について話し合う。

名札製作・班長決め

氏名⇒漢字を書いて、大きくひらがなでふりがな

クラス担当ごとに、クラスごとのリーダー、各班のリーダーを決める。

大学内下見

探検場所の確認

トイレ等の確認など

最終打ち合わせ

担当クラス(4クラス・各クラス学生6~7人)ごとに、注意事項(最初に話す)・

振り返り(まとめ)の確認

各班で来週のコースと内容を決定。

児童の先行経験（生活科の中で）

- ・一年生の秋探検で「血洗いの池」に入ったことがある。
- ・2年生に進級し、1年生に「学校案内」を行った。
- ・並行して「野菜栽培」を行っている。

（オクラ・ナス・キュウリ・トマトなどから自分で育てたいものにチャレンジ中）

- ・町探検スタート「目白の町の素敵なところ探し」

「おとめ山公園」探検を行った。➡学習院大学にも行ってみよう。

支援のポイント

- ・探検のしかた・見るポイントの発見 諸感覚を使う 何気ない不思議を見つける。
「どんな動植物がいるか?」「どんな人がいるか?」「『不思議（はてな）』見つけたよ」
「なぜだろう? わからない?」
- ・先生方の希望は、探検の導入部分なので、全体にいろいろ見せる。
➡2回目で深めたい
- ・探検のポイントを知らせる。
➡視点（自然・人他）意外なものを見つける。・大学生が見せたいところ。

② 6月2日「学習院大学探検」①

10:35 正門前集合

水・救急セット・地図（バインダー）を班ごと取る。

10:45 児童を迎える

クラスごとに挨拶・諸注意

10:55 班ごとに探検

班ごとに予定したコースに連れていきながら、児童に学習院の説明。

見学場所：馬場、血洗いの池、食堂、図書館、中央503佐藤学先生「世界の教育」、中央12階周りを眺める など

12:10 正門に戻る

クラスごとに振り返り → 解散

今後につなぐ

- ・1回目の学習院探検の後は、「もっと見つけてみたい・調べてみたい」を話し合っ、子どもたちの質問とともに6月16日に第二回目の学習院探検につなげた。
- ・一学期で探検の仕方を学び、2学期は自分たちで行きたいところを決めて町探検をする予定である。



③ 6月16日 「学習院大学探検」②

前回の反省

- ・あまりにもゆっくりし過ぎていたグループがあった。子どもたちに合わせすぎない。
➡ さあ、次に行こう！
- ・ヘビイチゴ ➡ 口に入れるは× 衛生面から。
- ・カラスの死体➡ 鳥インフルの危険 生き物の死体は触らせない！何か触った後は手洗い

10:35 正門前集合

水・救急セット・(児童からの質問用紙)を班ごとに取る。

10:45 児童を迎える ➡ 児童のメンバー表・デジカメを受け取る。

クラスごとに簡単に挨拶 ➡ 班ごとに子どもとの話し合い(本日の予定など)

10:55 班ごとに探検

班ごとに予定したコースに連れていきながら、児童からの質問を解決していく。

また、児童と話し合いながら学生がデジカメで写真を撮る

12:10 北1号館下広場に戻る ➡ 児童のメンバー表を回収・グループごとの写真を撮る。

班ごとに振り返り ➡ 全員揃ったらクラスごとに挨拶 見送り

授業のポイント

- ・前回の探検でいろいろなところに行った。
- ➡ 誰かに伝えたいね ➡ もう少し詳しく見る・写真に残す
- ・まだ行ってないところも探検してみたい

支援のポイント

- ・子どもたちの質問に対する事前の準備 ➡ 調べる・聞く
- ・コースを考える ➡ たくさんあるグループは行く場所の取捨選択を行う。
(子どもたちと当日相談も可)
- ・持って帰るものは写真だけ。拾う・摘むはなし



④ 10月27日「ありがとうを伝える」(授業外・A小学校)

子どもたちから招待状が届き、学生はA小学校に招待され町探検の成果報告を受けた後、児童との交流を楽しんだ。



○ 後期 1年生「秋さがし」(生活科教育法)

事前の準備

授業を行うにあたり、A小学校1年生担任と打ち合わせを行い、日程・内容等を打ち合わせをし、大学に書類を提出していただいた。授業については、指導案を一回目の授業の前にメールでいただき10月20日の授業で学生に説明した。

① 10月13日「出会いの会」(A小学校)

10:35集合

10:40～目白小学校に移動

10:45～12:10 1年生各教室を訪問

小学校1年生との顔合わせ

クラスごとに分かれて出会いの会



② 10月20日

次週のコラボ授業の説明

指導案を見ながら、目標を確認し、児童の支援について話し合う。

名札製作・班長決め

氏名⇒漢字を書いて、大きくひらがなでふりがな

クラス担当ごとに座り、クラスのリーダー、各班のリーダーを決める。

大学内下見

目白校地内の秋さがし、自然遊び研修

トイレ等の確認など

最終打ち合わせ

担当クラス（4クラス・各クラス学生6～7人）ごとに、注意事項（最初に話す）・振り返り（まとめ）の確認

各班で来週のコースと内容を決定。

支援のポイント

1、子どもたちの気づきの手助けをする。

「面白いモノ見つけたね！」「すごいね！」

2、子どもたちの体験をより豊富にする。（諸感覚を使って）

「面白いものがあるよ。」「どんなにおいがするかな？」「触ってごらん」

3、気づきを深める視点を伝える。

「足は何本あるのかな」「比べてごらん」

4、豊かな表現につなげる

「何に似ているかな」「歌にしてみよう」「名前を付けてみよう」

具体的なポイント

- ・くつつく種 …… アメリカセンダングサ・イノコズチetc
- ・葉っぱの色 …… 色探し、グラデーションづくりetc
- ・匂いのするもの …… サンショウ・ドクダミ・シソetc
- ・どんぐり探し …… ドングリ図鑑を使う
- ・木の幹 …… 何人で手をつないで囲めるか？目隠しして手触り？私の木
- ・モグラの穴 …… 棒を突っ込むと穴が開いてるのがわかる。
- ・虫 …… 臨機応変に対応する。
- ・その他 …… 柿の実、笹船など

③ 10月27日「秋さがし」

10：35 正門集合 諸注意、バンドエイド・水・観察小物をとる。名札ない人は大至急作る。

10：40 児童を迎える

クラスごとに挨拶・諸注意

10：45 各班で児童3～5人を連れて学習院秋探し

班ごとに予定したコースに連れていきながら、児童と秋探し・自然体験。

④ 12月1日「交流会」(A小学校)

子どもたちから招待状が届き、秋の自然物等で作ったゲームなどの発表会に招待された。



3. コラボ授業の今後

以上のように3年間の試行の結果、前期には2年生の「町探検」の一環として「学習院大学探検」、後期には1年生の「秋さがし」という小学生と大学生のコラボ授業を行うことで、大学生は、小学校低学年の感性や行動などを実践的に知ることができ、また、小学生にとっては、きめ細かい支援が受けられるとともに若いお兄さんお姉さんとの楽しい時間をもつことができた。

今後、各学年の子どもたちの状態や先生方の思いがあるので、全く毎年同じ授業はないものの、前期2年生・後期1年生とのコラボ授業は続けていく予定である。